第７波の政治判断＝青野由利

2022 年 07 月 30 日毎日新聞

欧米に倣って「行動制限はしない」と魔法の呪文を唱えれば、何もしなくても社会経済活動は回り、重症者や死者も増えない？

まさかそんな根拠のない楽観に従ったはずはないと思うが、このところの政府の新型コロナ対応を見ると疑いたくもなる。

もちろん、政治的判断が科学的判断と異なることはありうる。

その場合には、「科学的判断はこうだが、政治的にはこれをめざしてこうする」と説明する必要がある。その際、メリットとデメリットをどうてんびんにかけたのかも明確に語ってもらいたい。

さんざん指摘されてきたことだが、第７波の感染爆発に直面し、政府がどういう戦略で臨んでいるのか、さっぱりわからない。

BA・5 はこれまでで最も感染力が強く、免疫もすり抜ける。従来通りの対策なら感染者が急増することに何の不思議もない。

それでも、「重症化しにくいから社会経済活動の維持に軸足を移す」と政治判断したなら、「重症化しない人は検査・診療を控え、救急車を呼んだりしないで」といった求めもセットで必要になる。でも、それを可能にする方策を事前に講じた形跡はない。

その結果、重症化リスクの高い人やコロナ以外の救急患者が医療にアクセスしにくくなる。すでに過去に学んだはずのことだ。

感染者や濃厚接触者が増えればその影響で社会が回らなくなるのも当然と言えば当然。そこで政府が打った対策は「濃厚接触者の待機期間の短縮」だ。原則７日間を５日間とし、2 回の検査で陰性なら３日目の解除も可能とした

確かに助かる場面はあるだろう。だが、科学的には？

今週、厚生労働省の専門家会合に出されたオミクロン株のデータでは、濃厚接触者で感染した人のうち３日以内に発症した人は半数だけ。5 日目以降に発症した人が２割弱いる。感染していても発症前だと検査陰性の割合が高いとのデータもある。

結果的に待機期間の短縮は社会全体の感染拡大リスクを高めることにつながる。「濃厚接触から７日間は人にうつさない予防策を」と専門家は訴えるが、政府からのメッセージは弱い。

ここへきて、政府は都道府県の「対策強化宣言」支援を打ち出したが、遅きに失した感がある。高齢者などに的を絞った行動抑制という根拠の薄い内容も含まれる。

日本は欧米とは既感染者の割合も医療体制も文化も違う。いずれウイルスと共生する時はくるとしても、今は社会全体で感染を抑える時だと思う。（客員編集委員）

「行動制限」はなくても＝青野由利

2022/7/23 毎日新聞

第６波では終わらないとは思っていたが、新型コロナの第７波の爆発的拡大は想像以上だ。複数の要因が重なりあう中で、オミクロン株の亜系統である BA・5 の影響も大きいのだろう。

今週の厚生労働省の専門家会合では、主流だった BA・2 からほぼすべて BA・5 に置き換わったとの推定が示された。

感染が広がる速さはBA・2の1・3〜1・4倍。「これまでの新型コロナの変異株の中で最も感染力が強い」。先週、世界保健機関（WHO）の新型コロナ担当のマリア・バンケルコフさんも述べていたように、世界的な傾向だ。

重症化リスクは他のオミクロン株と変わらないようだ。だが、重症化リスクが低くても感染者が多ければ死者も増える恐れがある。第6波ではそれが顕著だった。

今は重症者は少ないようだが、高齢者でも感染者の増加幅が大きいことは懸念材料だ。これまで感染急増から遅れて重症者や死亡者が増える傾向があった。発熱外来のパンク、救急搬送の遅れ、コロナ以外の診療の制限も、あらゆる年代にとってリスクだ。

にもかかわらず、このところ政府が前面に出してきたのは「行動制限は行わない」とのメッセージだ。それが「感染が拡大しても行動を変える必要はない」という誤ったメッセージとして人々に伝わった可能性は否めないと思う。

まん延防止等重点措置など一律の行動制限を求めなくても、感染を抑える手立ては必要だ。「これまで通りの基本的な感染対策の徹底」と言うだけでは弱い。

専門家会議も指摘したように、個人個人ができる「行動抑制」によって、感染リスクを高める人と人との接触機会を減らしてほしい、とのメッセージがいるはずだ。

振り返ってみれば昨年はアルファ株からベータ、ガンマ、デルタ株と変異株が入れ替わってきた。今年はオミクロン株の中での置き換わりが進んだが、「次の変異株はもっと感染力の強いものになるでしょう」とバンケルコフさんは容赦なく警告する。

考えてみれば当然。感染が持続する中でさまざまな変異ウイルスが生まれ、互いに競い合う。その中で、感染性が強く、免疫をすり抜けるものが生き残り、拡大していくからだ。その中から重症度も高い変異株が生まれない保証は、残念ながらない。

行動制限もマスク着用も二者択一ではない。感染症法上の分類が「2類か5類か」の単純な議論もやめた方がいい。それでは今なお進化し続けるウイルスに裏をかかれてしまう。

（客員編集委員）